

令和4年度第2回評価委員会結果の概要

1. 委員会の概要

- 日時： 令和5年3月2日(木)13:30～15:30
- 場所： Web開催
※水みらい広島社員は水みらい広島本社（広島県広島市中区小町1-25ビル博丈平和大通り2F）にて参加
- 議事： (1) 人材育成について
(2) 広報活動について
(3) その他評価項目について
(4) 基本方針について

2. 報告内容

以下①～③の内容を記載する。

- ① 評価項目「人材育成」と「広報活動」についての質疑応答と意見
- ② その他の評価項目について状況報告
- ③ 令和5年度以降の第三者評価委員会 活動の基本方針についての報告

① 評価項目「人材育成」と「広報活動」についての質疑応答と意見

【評価視点】

項目	視点
人材育成	採用の工夫を行い適切な職場環境の構築に務めているか 職員の待遇が成果や能力に対して公平に定められているか 教育研修を確実に実施し成果をあげているか 目標管理制度を適切に活用することで業務効率を高めているか 国際展開までできるような創意工夫のできる人材を育成しているか 受託業務や受託先を増やせるような営業力のある人材の育成を図っているか
広報活動	水みらい広島の信頼の実現のためのPRを実施しているか ネットメディアを利用した情報公開を積極的に実施しているか 地元活動を着実に実施することで成果を上げているか 業界向け広報を着実に実施し成果につなげているか

【質疑応答】

項目	質問（委員会）	回答（水みらい広島）
人材育成	水道工学、水道の歴史や水道の意義などを学ぶ機会について	新入社員研修の中で水道技術基礎という講座を設けており、水道の歴史について講習の中で説明を行っている。
	教育研修のテーマ設定について	本社や各事業所から選定されたメンバーで構成されている委員会の中で、どのような研修を実施していくかを議論して決めている。
	研修を受講する側は何を基に研修を決めているのか	誰にどのような講座を受講させるかは、各所属長で判断して実施している。
	BCP への取り組みについて	広島県内で行われる G7 サミットに備え、広島市水道局および環境保健協会と対テロ対策を検討している。三社間での協議を通じて、開催期間中、事前にどのような対策をして、いかにして未然に防ぐか、対応すべき事象が発生した時の指揮命令系統をどうするかについて、実務レベルで体験できている。本来であれば、予め想定して BCP 研修をしておくべきである。今回の G7 での実務経験を通じて得た知見などを踏まえ、今後の研修材料としていきたい。
	コンプライアンスへの取り組みについて	当社のコンプライアンス研修に加えて、水 ing グループのコンプライアンス研修を年に複数回実施している。研修後のアンケート結果を見ながら次年度のアクションプランを検討し、実施していくことで組織としての浸透度をチェックしながら、次年度の行動に結びつけるというサイクルを繰り返し進めている。
広報活動	HP 上見られているページについて	ランキングは上から順に「コーポレートサイトのトップページ」、「会社概要」、「募集要項」、「水みらい広島とは（事業概要）」、「リクルートサイトのトップページ」、「お知らせ」というような内訳である。
	「水みらい広島」をインターネット検索する際、どのような言葉をついにして検索されているか	Google で「水みらい広島」を検索すると「水みらい広島 本郷」という候補が一番上に出る。これは本郷事業所があるためである。続けて、「水みらい広島 日立」、「水みらい広島 京都」、「水みらい広島 求人」、後は「採用」、「評判」、「尾道」、「年収」という順番である。この検索結果は当社が設定しているものではない。
	HP の解析について	Google アナリティクスでサイトを訪れた人の属性（性別、年齢など）を分析している。

	<p>新たな広報活動について</p>	<p>ターゲットを絞った広報活動の実施や「子ども参観日」を開催した。後者については、水みらい広島に勤務している社員の家族を対象に実施した取り組みである。実施後のアンケートでは、「自分のお父さんが日々どんなことをやっているのかということが分かった」、「水の大切さが分かった」といった好意的な反応が多かった。また、その親である社員からも「家族に自分の仕事内容をわかってもらうことができたのは大変良い機会だった」、「また、こういう機会があれば参加したい」といった好意的なコメントを受領した。</p>
--	--------------------	--

【意見】

項目	視点
<p>人材育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 水道が果たしている役割、社会における役割等を深く知ることにより、モラルのベースがより深く定着するのではないかと思う。 ● 安心・良質な水を提供し続ける上で、災害やテロなどの問題に対する意識の向上はとて重要である。令和 5 年 5 月に G7 が広島で開催となると、BCP の視点は重要であり、緊急事態に備えた対応というところの意識を醸成する必要がある。 ● 継続してコンプライアンスに対する意識付けを行い、学ぶ機会をたくさん作ることが大事と思う。社長に限らずコンプライアンスを教育できる社員を一人でも多く育成することを目指して行くべきと思う。
<p>広報活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報活動の効果測定は難しいが、受注や雇用に関しては CPO※で見ることが出来る。他にはどれくらいのページ作成費用であるのか、広告費用に対して何人獲得できたのか、どのような受注があったのか、こういったことを数値で判断されると、より効果的な広報ツールの作成というのが可能になると考える。 ● SDGs 目標の 6 に「安全な水とトイレを世界中に」があり、その中の「6 b」が水事業の取り組みになると思われる。「水と衛生に関わる分野の管理向上における地域コミュニティの参加を支援・強化する」というもので、水みらい広島の事業活動につながると思う。 ● 水みらい広島の事業活動、衛生管理的な水の大切さを教育と地域活動を通じて、多くの人々に伝え、理解してもらい、興味を持ってもらえることが大事である。 ● 水みらい広島の事業活動と HP へのアクセスというところを「教育」という視点で結びつけると良いかもしれない。

※Cost per Order、新規顧客による受注 1 件にかかった広告費を意味する KPI

② その他の評価項目について状況報告

評価項目	評価する視点	状況報告												
基本的項目	水道の本来の役割としての水みらい広島のやるべき事、発注者（行政側出資団体）に求められていることを尊重し、理解した上で、その実現を目指しているかどうか。	平成 29 年に制定した第二次中期経営計画でも「地域とともに、水のみらいを創造する」という理念、および「広島から、水のトータルソリューションカンパニーを目指す」というビジョンを掲げ、「更なる安心且つ安定な用水供給サービス提供体制の強化」「県内市町水道事業体への水道サービスの拡大」「県内水道事業の受け皿会社に求められる機能強化」「会社の持続的成長に欠かせぬ新規事業の拡大及び収益力の強化」「県外と将来的には海外における水事業展開」をめざしている。												
水道の品質	（水道の品質が、要求された水準を満たしているかどうかの確認を、発注者（行政側出資団体）の実施する「指定管理業務のモニタリング結果」から確認する。	県のモニタリング結果は Web サイトに掲載 県営水道における指定管理業務の実施状況について - 広島県企業局 広島県 (hiroshima.lg.jp) 広島西部、沼田川用水・工水とも以下の通り（A：良好、B：要改善） <table border="1" data-bbox="699 757 949 1059"> <tr> <td>R4 2/4</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>R4 1/4</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>R3 総括</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>R3 3/4</td> <td>A</td> </tr> </table> 呉市のモニタリング結果も Web サイトに掲載。 令和 3 年度 指定管理者制度のモニタリング評価結果 - 呉市ホームページ (kure.lg.jp) 以下の通り。（A A～D までの 5 段階評価。9 点以上 A A，7～8 点 A，4～6 点 B，2～3 点 C，1 点以下 D） <table border="1" data-bbox="699 1243 949 1393"> <tr> <td>R3</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>A</td> </tr> </table>	R4 2/4	A	R4 1/4	A	R3 総括	A	R3 3/4	A	R3	A	R2	A
R4 2/4	A													
R4 1/4	A													
R3 総括	A													
R3 3/4	A													
R3	A													
R2	A													
経営	経営戦略が策定され、これが経営にあたって指針の役割を果たしているか 水道事業の持続のための広域化の受け皿として受託拡大のための活動は継続的に実施されているか	第二次中期経営計画（SHINKA2022）を平成 30 年 5 月に策定（令和元年 5 月改訂）した。 最終年度売上目標は目標から若干ショートしたものの、順調な伸びを見せている。一方営業利益は令和 3 年度までは目標を先行していたが、最終年度である令和 4 年度は電気料金高騰のため、目標を満たすことができなかった。 活動は継続的に実施されており、実際に令和元年度は三原市業務が開始され、令和 2 年度は尾道と廿日市の業務が拡大された。令和 3 年度は東広島市業務が開始された。 また、令和 4 年 6 月に「広島県水道広域運転監視システム構築業務」を電機メーカーとの JV で受託した。												

	<p>原価管理を適切に実施しているか</p>	<p>平成 30 年度以降、以下の内製化を行い、原価低減に努めるとともに社員の技術力向上に取り組んでいる。</p> <p>脱水機運転（白ヶ瀬、本郷）</p> <p>ろ布交換（本郷）</p> <p>沈でん池清掃（三ツ石、白ヶ瀬、本郷、坊土）</p> <p>GLF 点検（三ツ石、白ヶ瀬、坊土）</p> <p>緩速ろ過池のろ過砂掻き取り（宮浦）</p>
	<p>業務効率化に必要な契約交渉を発注者（行政側出資団体）と継続的に実施しているか</p>	<p>令和元年度より西部で白ヶ瀬三ツ石の相互監視を始め、監視業務の省力化を実現した。実施に先立ち、発注者と業務水準や信頼性の低下リスクが無いことを確認し、検証期間を経て実施した。</p>
維持運営	<p>日頃のメンテナンスの効率化に ICT 等を活用して推進しているか</p>	<p>江田島で、これまで社員が目視確認してきた管路流量データを無線で集める方式に変更し、異常（漏水）検知や水運用を行うアプリ開発を行い客先から高評価を得ている。</p> <p>また文書管理システム、在庫管理システムの運用を開始した。</p>
	<p>修繕の適切な実施とこれによる機器の延命化が図られているか</p>	<p>設備健全度の数値化・・・プラントメーカー、コンサルタント会社等と「水道施設における保全業務の改善に関する共同研究」を行った。（平成 29 年 10 月～令和元年 12 月）対象機器：攪拌機、掻き寄せ機、ポンプ等。令和 2 年度から西部で取り組みを実施している。</p>
	<p>作業手順書によるノウハウの共有、手順書の更新は継続的に実施されているか</p>	<p>西部、東部、呉のマニュアル化は終了し、継続的に見直し更新をしている。</p> <p>新規受託した市町についてはマニュアル化を推進中。</p>
	<p>運転条件の確認と適切な運転が実現されているか</p>	<p>これまで蓄積したデータとノウハウに基づき、薬品の注入率決定に AI を用いる研究開発を民間企業と行っている。</p> <p>運転管理のマニュアルに関して体系化を進めている。</p>
リスクマネジメント	<p>確実な運転管理の実施を通じて異常の早期検知ができていますか</p>	<p>これまで通り、異常の早期発見についてはセンサーによる警報ならびに水質データの監視によって対応ができています。実例を挙げると、令和 4 年 11 月 7 日に白ヶ瀬浄水場にて原水に油分が混入（最大 3.06mg/L）したが、水中油分センサーが「油分検知」警報を発報。警報を受け水質汚染事故対応マニュアルに従って活性炭の注入、オイルマットの設置、社内及び関係機関への連絡、臭気測定等の対応を行った。的確な対応ができたため、処理水（ろ過池後）への影響は避けられた。</p> <p>オペレーターによる水質計器値の常時監視に加え、1 時間毎の水質データの記録を行っている。Excel のアラート機能を活用し異常の見落とし防止に役立っている。</p>
	<p>毎日の水質試験を技術者が確認することで確実な水質管理ができていますか</p>	<p>採水業務は社内で採水資格者の認定を行っている。濁度が管理基準値度を超えた場合、水安全計画に則って速やかに微生物検査等を実施し、水の安全性を確認している。</p> <p>水質情報管理システムに毎日の水質結果を登録し、クラウドで共有できる仕組みを構築・運用している。</p>

	<p>管路異常の事前検知を目的としたパトロールを含め管路事故への対応体制はできているか</p>	<p>管路に特化した研修会を定期的に行っている。</p> <p>相関式漏水探知機等の直接的な調査や、動水圧の連続調査及び、受水団体側の流量調節弁の開閉状況の間接的な調査を組み合わせることで漏水発生防止に努めている。</p>
	<p>災害対応・非常時対応は計画的に準備されているか</p>	<p>令和元年度から安否確認システムを運用中。定期的な訓練も行っている。</p> <p>サーバのリモートアクセス、Teams 導入による在宅勤務体制を確立。</p> <p>抗原抗体検査キットの在庫を確保。</p> <p>BCP（地震、水害、感染症）を毎年改定。</p>
	<p>浄水場外、水源等のチェックをする体制を取っているか</p>	<p>水源パトロールを継続して行っている。</p> <p>水質検査機関の水質データを水質情報管理システムにインプットして運用している。</p>
連携	<p>地元企業との連携を図っているか</p>	<p>平成 30 年の豪雨災害を受け、その後約 70 社と災害時応援協定を結んでいる。</p> <p>地元維持管理会社から派遣を受け入れるとともに地元管工事組合に業務を委託している。</p>
	<p>地元への雇用貢献に具体的に取り組んでいるか</p>	<p>令和 4 年度の採用実績は 20 名（内訳 新卒 7 名、中途 13 名）であり、約 8 割が地元採用である。</p>
	<p>対受水団体、周辺自治体との関係構築は進めているか</p>	<p>広島県主催の受水団体協議会に参加。（毎年）</p> <p>水道事業体への人材派遣</p>
	<p>専門的な企業との連携等により業務の幅を広げているか</p>	<p>DX、GX 推進等を目的に、電機メーカー、IT 企業、電力会社、コンサルタント会社等と協力している。</p>
	<p>発注者（行政側出資団体）との連携を十分に取れているか</p>	<p>行政側出資団体である県・呉市と共同研究、モニタリング会議、連絡会等緊密な連携を取っている。</p>
	<p>民間側出資団体との連携を中長期的な視点から進めているか</p>	<p>DX、AI 開発、水処理の新技术等、多岐にわたる共同開発で連携を取っている。</p>

③ 令和 5 年度以降の第三者評価委員会 活動の基本方針についての報告

現時点での検討状況について報告を行い、意見を伺った。再度内容を検討した上で、令和 5 年度第 1 回目の委員会で基本方針の報告を行い、その方針に沿って運営していくものとする。

以上